
議会改革検討会会議記録

令和元年7月26日

会 議 記 録

会 議 区 分	議会改革検討会	
開 催 年 月 日	令和元年7月26日	開 議 午後1時02分 散 会 午後2時01分
場 所	苫小牧市議会 議会大会議室	
出 席 者	代 表 者	矢嶋会長、池田団長、松尾代表、松井代表、 小野寺団長、桜井会長、 触沢議員
	代理出席者	—————
	正・副議長	金澤議長、藤田副議長
欠 席 者	—————	
説 明 員	—————	
事 務 局 職 員	園田事務局長、宮沢主幹、能代副主幹、 小坂主査、高尾主査、西野書記、渡辺書記	
付 議 事 件 及 び 議 事 の 経 過 概 要	別紙のとおり	

●議長（金澤俊） ただいまから議会改革検討会を開会いたします。

●議長（金澤俊） 本日の案件につきましては、お手元の会議案のとおりであります。

お手元に資料として資料1及び資料2を配付させていただいておりますので、御確認をお願いします。

●議長（金澤俊） 最初に、資料1を御覧ください。

資料1の議会改革検討会決定・確認事項については、検討項目ごとにこれまで決定・確認されたことをまとめたものでございます。

前回6月28日に開催させていただいた検討会の中で、全員協議会の位置づけ、市民との意見交換の手法、議会のICT化の推進に係る実務者会議のメンバーについて、次回協議することとしておりました。

また、9月定例会から傍聴者アンケートを実施することを決定し、アンケート内容については次回正副議長案をお示し、協議することとなっております。

さらに、投票率の向上に向けての取組についてを検討項目とすることに決定いたしました。

以上が、前回の議会改革検討会決定・確認事項であります。

本日の検討会の進め方でございますが、持ち帰りいただいて各会派で協議いただいた3点、1点目は全員協議会の位置づけ、2点目は市民との意見交換の手法、3点目は議会のICT化の推進に係る実務者会議のメンバー及び傍聴者アンケートの内容について各会派から御意見を伺い、協議を進めたいと考えておりますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきたいと思っております。

●議長（金澤俊） それでは、協議に入らせていただきます。

最初に、6月28日開催の議会改革検討会において、各会派でお持ち帰り御協議いただくようお話しさせていただいておりました項目につきまして進めてまいりたいと思っております。

まずは、全員協議会の位置づけについてでございます。

全員協議会については、議会基本条例策定当初でも、議員間討議を行う場であるとか、また、イメージとしてどういうものかなどの御意見がございました。難しい部分もおありかと思いますが、各会派でお持ち帰りいただき、どのような意見が出たのか各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 私たちも議会の合間を縫っていろいろな会議をやらせていただいておりますけれども、いわゆる代表者会議で諮るとか、そういった場面もあるわけですが、代表者会議ではなかなか進まないような案件だとか、それから全市的な課題ですか、我々苫小牧にとって大きなテーマが出てきたときに、やはり各代表者会議だけではなく、28名全員の皆さんのそれぞれのお持ちの意見を、党派を超えた多くの意見を、多数の意見をそれぞれお持ちかと思っておりますので、そういった場所にしていただければなと思っておりますのでございます。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちも基本的に以前からもそうですけれども、やはり全員協議会というふうになると、市民の代表でありますから、幅広くその各議員さんの意見を聞ける場としては、ぜひということがあります。

いわゆる具体的にというのはちょっと難しいですが、やはり今もありました、例えば市とか市民の方、全市的なその重要項目については、ぜひこの全員協議会の場で議論をすべきだろうと、そのように思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私たちの会派でも様々なこの全員協議会に対する意見を取り交わしたわけなのですが、今お二方もおっしゃったとおり、幅広く議員の意見を聞くといたしますと、やはりこういった全員協議会の場が必要であるというふうに考えています。そういう場であってほしいというふうにも思っていますので、今前段でおっしゃったお二方の御意見に近いかなというふうに思っています。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 私どもの会派内で協議をいたしました結果ですが、今ほどお三方が述べられたように、苫小牧市の重要案件について議員全体で協議をするということの場としては必要だというふうな認識を持っております。

それと加えまして、議員間討議という話が条例制定の際からずっと出ておりました。それで議員間討議の場もこの場でというふうには、したらいいのではないかというふうに思っておりますけれども、ただ、その中で基本条例の6条に、市政に関する課題

で特に全ての議員が協議すべきであると判断したものについて全員協議会を開催し協議することができるという書きぶりになっておりまして、例えばその議会自身の問題とか、そういったところを議員間討議する場合は、この辺の解釈というか共通認識どう取っていくかというところが課題として残ってるのかなということが意見として出されておりましたので、申しつけさせていただきたいと思います。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 私たちも全員が集まっての意見交流、交換みたいなものがすごく重要だと思っていまして、議員間討議というのもやっていけるような場にも発展していければなと思っています。

大体は会派同士の意見交流の場という代表者会議にこれまでなっているのですが、会派の中でも温度差があったり、意見が分かれる案件もあると思いますし、その中ですごく重要な課題というのも多くあると思うのです。そういうときには全員協議会を開いて、みんなの意見を聞こうという、そういう場を適時設けていったらいいなと思っていますし、そこで討議に発展することができるような仕組みづくりができたらいいなというのを目指していきたいと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 全員協議会をすることについては、それでいいかなというふうに思っております。

議長が必要と認めた場合に開くというふうになってはいますが、例えば議員のほうから、何人集まって要求したら議長も開いてくれるみたいな、その辺の規則やなんかもう若干こう考えなければいけないのではないかなというふうに、議長が思うだけではなくて、議員のほうから要求がこのぐらいあったらやはり開くというような、そういうものが必要なのではないかなというふうには思いますが、これをぜひそういう形でやっていただけるようお願いをしたいと思います。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 皆様の御意見に賛同いたします。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から御意見をいただきましたが、皆さんおおむね幅広い、その会派のみならず、議員個々の考えを述べるような場としても全員協議会が必要であろうというような位置づけに関しての御意見をいただきました。

正副議長といたしましては、条例に規定されておりますので、早めに位置づけを決めたいというふうに考えております。全員協議会を新たに設けるということになるわ

けでありますけれども、既に皆様御承知のように議員協議会がございまして、人事案件や市側の報告等について協議を行う場としておりますことから、今後の議員協議会の取扱いをどうするのかということについて決めておく必要がございます。今後の議員協議会の在り方について、新たに設ける全員協議会との関わり、整理、こういったことについての各会派の御意見をお伺いしたいと思っております。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 私どもは、やはり2つあってもいろいろと混乱するかと思っておりますので、全員協議会のほうへ一本化しまして、その中で例えば人事だとかそういったことも話し合ってもいいのかなと。それで、場合によっては全員召集でなくても全員協議会に代わる代表者会議というそういう設け方もできるのかなと思っておりますので、できましたら全員協議会に集約をしていただければ分かりやすいのかなと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 一本化で賛成なのですがけれども、要は項目によってその中身が違うと思うのです。現在やっている人事のことにしても、代わる代表者会議ということは現実にありますので、だからそこは項目によってきちんとその辺をルール化だけは明確にしてほしいと、その上で一本化にするということによろしいかなというふうに思います。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私たちもこの全員協議会、議員協議会も含めて一本化ということで、おおむねよろしいかというふうに思っています。

今池田議員もおっしゃったとおり、やはりそのルール化というものは当然必要になってきますので、そのあたりをしっかりと議論をさせていただければというふうに思います。

以上です。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 全員協議会と議員協議会と2つあった場合、非常に紛らわしい話になってくるのかなというふうに思っておりますので、私どもも一本化をします。これまで議員協議会がやっていたものを全員協議会のほうに包括をしますということに賛成をいたします。

以上です。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 皆さんの御意見と一緒に、一本化していったほうがいいと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 一本化して、ただ、例えば人事というのは基本的に表でそれがいいだとか悪いだとかという形でならないようにということで、今まで代表者会議に送って、そこでやっていたので、そういうものもある。ただ、基本的には皆さんで全員協議会をやるという、その運用をきちんとすればいいのではないかなというふうに思っております。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 皆様の御意見に賛同いたします。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から御意見をいただきました。

皆さん全員協議会に現在ある議員協議会を包含する形で一本化と。ただし、ルールをしっかりと決めた上でということの御意見をいただきましたので、そのようなことで全員協議会に一本化するという方向で今後は進めていきたいと、そのように考えております。

正副議長といたしましては、現在の議員協議会の内容を取り込み、かつ新たに所管事項を増やすなど、全員協議会の内容を整理して各議員の皆さんの考えを聞く場、また討議を行う場をつくっていくということで進めていきたいと考えています。

例えばでございますけれども、全員協議会については新たな設置ということではありますが、今ある議員協議会の案件に加えて新たな所管事項、例えば今の人事案件、市側からの報告、協議に加えまして、議員定数や報酬などについて議員間討議を行う、もしくは協議または質疑方法や議員間討議の進め方、案件については、案件ごとに検討していくとか、協議の結果結論に至らない場合は、先ほど御意見もありましたが、代表者会議やあるいは検討会に送るなど、いろいろとルールづくりをすることも今後必要かと思っておりますので、今例で申し上げましたけれども、こういったことも含めまして今後進めていきたいというふうに考えておりますが、この全員協議会の運営の在り方に関しまして各会派のお考えを聞いていきたいと思っております。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 運営の仕方ですか。

●議長（金澤俊） はい。

●新緑会長（矢嶋翼） そうですね、これは任意のものでございますので、定期的

にとかは分からないので、急に私も申し上げることはできないのですけれども、どうしましょう。常に開会ができる用意は、常にオープンにさせていただいて、それで最終的には議長の判断でということでございますけれども、先ほどからも御意見が出ておりますので、柔軟に必要な応じて開会をしていただければありがたいかなと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 多分項目については偶発的にその時折の流れの中で重要案件が出てくると思いますので、そのときの正副でもんでいただいて、代表者会議でどうだろうと、全員協議会でどうでしょうという、そういう方式というか、流れでどうかなというふうに思います。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 新しくこうやっていくような形になっていきますが、やはり案件ごとにいろいろと割り振りするのは非常に難しいところもあるのかなと思うのですが、その時折の案件ごとにそれを議論できるような形にさせていただければというふうに思いますが、いかがでしょうか。

●議長（金澤俊） 御意見をいただきましたので、続きまして改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） この全員協議会の設置に関する第6条では、議長はというような、必要があればということで書かれております。先ほど御意見がありましたけれども、会派の要望とかそういったそれは議長に伝えていただいて、その上で代表者会議か何かに諮っていただいて、そういう手順を踏んでやることでありますから、議長が勝手にということには当然ならないわけでございます、そういった運用をしていただければありがたいなというふうに思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） まず最初に来るのが、私が先ほども申し上げたように、代表者会議に何らかの議案というか案件の頭出しみたいなのはあるのかなと思うのです。代表者会議で議論する中では、これは全議員の意見を聞くべきだよねというふうに発展したときには、いつでも適時開くことができるような運用だったり、あるいは桜井代表がおっしゃっていたように、会派だったり、もしくは何人かの議員で、こういう案件があるのでぜひ行ってくださいよと議長に申入れをして開くだとか、いろいろなパターンがあつていいと思うのですけれども、まずはハードルを高くしないというか、壁を高くしないで、何というのかな、やるべきだという考え方

が一定程度発展したときには開けるような、そういう運営にしていっていただけたらなと思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） やはり大きな苦東の、苦東ではなくて苦小牧をいろいろな左右するような大きな問題、例えば今苦東と言いましたけれども、先日も新計画に対する意見というのがありましたけれども、あと過去で言えば駒澤大学の誘致のときですとか、それから苦東の破綻のときだとか、そういう大きな問題のときに全員で議論をするという形になろうかなというふうに、今後そういうものが出てきたときにそういう形になろうかなというふうに思いますが、その中で一つだけ、過去に土地開発公社の用地取得、錦岡の駒澤大学の裏のほうの土地ですけれども、それをしたときに問題になって、全議員で委員会をつくったということがありますので、そういうように全議員で委員会をつくるとき等の、こういう場合はどうなのだというようなことやなんかも、今後、整理されるときにその辺のことをきちんと整理していただければというふうに思います。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 運営についてということで、私から何か意見というものはありませんけれども、議長、副議長の裁量になってくるのかなとは思っていますので、よりよい全員協議会になればいいかなと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から御意見をいただきましたが、この前にも皆様から御意見をいただいておりますように、付け加える項目、それから今御意見いただきました運用の在り方、こういったものも今後しっかりと整理をしながら進めてまいりたいと思いますけれども、全員協議会につきましては、基本条例にも明記されておりますので、内容についての一定の整理をスピード感を持って進めたいと、そのように私どもとしては考えておりますので、現段階では9月の定例会で現行の申合せ事項の改正を行うというようなことで進めていきたいと、そのように考えておりますので、各会派にお持ち帰りをいただいて、次回の検討会において再度また御意見をお伺いして決定していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

●議長（金澤俊） 次に、市民との意見交換の手法について各会派の御意見をお伺いしたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） いわゆる広聴という部分かと思いますがけれども、私たちも日頃議員として日常活動の中でいろいろな市民の皆さんと意見交換をしておりますけれども、まだまだ知らない個人の方や団体さん、それからボランティアで苦小牧のまちづくりのためにいろいろ貢献していただいている、そういった団体さんもあるわけでございますので、ぜひそういった私たちの知らないところで苦小牧のことを考えてくれて活動してくれてる団体さんもおられますので、そういった方々ともできれば情報交換などして、これからの苦小牧のまちづくりにぜひ役に立つようなことを意見交換して、一步でもそれが進むようにしていきたいなと思っておりますので、広く一般市民の皆さんからの意見交換の場が設けられれば良いなと思っております。

ただ、何かまたいろいろな団体でそういった、ではどの団体と話をするのかだとか、そのあたりの課題もあろうかと思えますし、それから、全員で意見交換するのか、それとも私たち各議会のほうで委員会が6つ、常任委員会4つと特別委員会2つありますので、委員会のその所管ごとのテーマにのっとなって、そういった方々とお会いをして何か要望なり、何か今後のまちづくりについて参考意見などを聞かせていただいて、私たちもまたそれを議会で役立たせるとか、そういったこともできるかなと思っておりますので、多少、ではどういった方と、我々のほうも誰が会うのだとか、そのあたりの解決はしなければならぬのかなとは思っておりますけれども、ぜひこの意見交換の場は、広く開かれた議会というのが目的でございますので、こういった機会をなるべく多く持つべきでないかと思っております。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） これは大変素晴らしいことで、そして難しいというものです。

まず、今までの議論を踏まえて捉え方としては2つあろうかと思えます。私たちも全国的に何か所かがこの基本条例をベースにした、俗に言う広く市民の方に来ていただいて、議会の状況なり議会報告をしながら、そして最後に皆さんに意見をいただくという、この議会報告という、広く市民の方にです。これが一つと。

今もちょっとありましたが、各種団体の方との懇談会といいますか、そういう要望を聞くみたいなのということがあろうかと思う。ベース的には大変大事で、もっともっと市民の方に広げなければ駄目だという思いでは賛成なのですが、ちょっとこれはちゃんとといいますか、自分たちが今まで何か所が全国的に、この議会報告の実態をちょっと視察をさせてもらったときに、やっているところで、一時やったけれども、やめたところ、全くやっていないところと、いろいろな意見を聞きましたら、例えばこの持っていき方といいますか、運営の仕方があるのですけれども、いろいろな

捉え方があって、あるところはまだ市内で同じ日に同時開催で2か所、3か所やったり、1か所もあるのですけれども、分けたときにこれを誰が仕切るのかという。なぜかという、それを推進する側が、今で言えば例えば苦小牧であれば旬な話題というのは例えばIRであったりしますけれども、それを誰が答えて、議会として、例えばそれは議会であっても賛成、反対が分かれているわけだから、その方が議会として、その市民の声が出たときに答えられるのかといたら答えられないと思うのです。個人的にはというそれは、別に市民が求めているものでもなくて、そういう一つ難しさがある、実態として各自治体でもうちょっと中身を精査したり、運営の仕方を考えているということが1つ。

それと、先ほどもちょっとあった各種団体との懇談、これも大事な話ですけれども、懇談ですから多分8割、7割ぐらいは要望かと思うのです。こうしてほしい、例えばもう少し予算をつけてくれという。だからそれを誰が答えて、どのようにフィードバックしていけるのかということについては、ちゃんと慎重にこちら側が考えていかないと、ただ聞きっ放しで終わるというのもまた責任のない話ですから、そこまできちんとやらなければ駄目だろうなというふうに思っています。

ですから、1つは議会報告を広く市民の方にアトランダムに来ていただくという形態と、もう一つは各種団体との懇談会、大きく言えば意見はその2つになるのかなというふうに思うのですけれども、もうちょっと詳細に中身を、持っていき方のことを考えないと、ちょっと逆に市民の方に御迷惑をかけてしまうのかなということがあるものですから。

やることについては大いに賛成です。

以上です。

●議長（金澤俊） 民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私たちは、とにかくこれまでこの議会改革検討会に参画をしてきて、この件に関しては慎重的な立場を取ってきたわけではありますが、その中でなぜこの慎重になっているかといいますと、情報発信することに対しては異議はありません。

また、こういったことをどんどん進めていくということは、当然市民への情報公開の一つのツールとして担っていくわけですから、そこについては異論は特にありません。

心配しているのが、やはりその手法です。その中の手法でいろいろと様々に今御意見がありましたけれども、我々はそういったところのハードな部分に関してもしっかりと整理ができていけば、どんどん進めていけるような態度を持ち合わせていますの

で、そういった考え方を一つ持っていることをお知らせをしたいなと思っています。

また、もし進めるとなりますと、当然手法のことも今お話をしたわけですが、私は議会だよりの編集委員会を務めていたこともありまして、そこで苫小牧市議会として先進的な事例が一つ持てたのかなと思いました。というのも、初めて議会だよりを発行する際のテーマができたわけであって、そこを市民と情報共有する場所ができたかというふうに認識しています。

そういった小さなところからやっていくことで、またいろいろとこの検討会でもテーマを見いだせるなというふうにも思っていますので、そういったハードな部分、ソフトな部分に関してこれから議論を深めていければなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 広報広聴という関係では、その議会報告会については、前段で池田代表がおっしゃられたようになかなか厳しい運営をしているところのお話も聞いておりますけれども、その中でも改善を加えて継続して、議会報告会を重ねてきている議会もあります。そういった意味では、そういったところを調査しながら、今すぐということにはならないと思いますけれども、将来的な取組として議会報告会の開催というのも視野に入れながら、これからも議論をしていきたいなというふうに思っています。

それともう一つ、その常任委員会と市民団体もしくは企業市民といいますか、その協会、組合関係の方々、所管の委員会とそういった団体との意見交換というのは、議会基本条例の議論をしているときも、そういった取組はどうだろうかということで、前の議長がよく口にしていたことでもあります。そういったところは比較的取っつきやすいといいますか、やりやすい面でもあろうと思いますので、これは検討して取り組んでいくべきだというふうに思っております。

加えて申し上げますと、その所管委員会でそういった意見をお聞きして、聞きっ放しになってはいけないと思いますので、よりそのいただいた意見等を委員会の所管事項の議論に加えるとか、その他の所管事項に加えて議論を深めるとか、あるいはその委員が参加して一般質問で取り上げて、議会の議論を進めていくというような運び方もできると思いますので、ただ単に予算を増やせという話であれば、これはまたちょっと違う方向に行ってしまうかもしれませんが、なぜそこを行かなければならないのかということをよく意見交換の中でお聞きをして、我々もしっかり受け止めて活動に生かしていくという心持ちで進めればいいのではないかというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 市民に議会のことを知ってもらって、議会のことを身近に感じてもらおうということから始まった議論だと思うのですが、そこを目指すのであれば、議会報告会というのがすごくいいやり方だと思っています。ただ、ハードルも高いし課題もたくさんあるので、議会報告会をまず目指しつつ、まずできるところから違う方法で何かできないかということを考えてときに、これまで皆さんが御意見を上げているように、所管委員会としてでもいいですし、議員全員に対してでもいいのですけれども、各団体との懇談会形式みたいなものでその団体の皆さんの御意見を聞く、もしくは困っていることだとか改善してもらいたいことを聞くということは、すごく有意義なことだと思いますし、この数年は中断してやられていないのですけれども、身障連の団体の皆さんとの懇談会というのを毎年これまで続けてきました。そこですごく大事な課題を議会へ提案していただきましたし、松井代表がおっしゃったように一般質問で取り上げて改善を求めていったという経緯もありましたので、そういう団体の皆さんの意見を聞いて、一般質問でもいいし、所管委員会でもいいし、そこにその話で聞かせていただいたものを課題にして、議会で取り上げていくということはずごく大事なことだと思うので、そういうところからだったら、議会側からも各団体に発信してというか、やりませんかということはアプローチしていけることですので、まずそういうことをやっていきたいなと思っています。

もう一つが、何年か前に議会運営委員会で半田市に行政視察に行ったときに、この議会への市民の声ということで、庁舎の入り口にこのペーパーと回答を入れる箱を置いて、いつでも来庁した市民の皆さんに意見を聞こうという取組をやられていました。これも苫小牧市議会でも傍聴者以外の枠組みで声を聞くということでは、すぐに取り入れられる手法ではないかなと思いますので、こういうことも今後のこの議会改革検討会で検討していけたらいいなと思っていますので、まず初めに、ほかの会派の皆さんにもぜひ配ってみたいなと思うのですけれども、議長、よろしければお願いいたします。

●議長（金澤俊） はい。そのように取り扱わせていただきます。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 今小野寺議員が言ったところに、私も一緒に視察に行きました。そこで議員が報告会をやっていると。聞いてみますと、最初はある程度数十人来ていたものがだんだん少なくなって、もう数人というようなこともあるのだと

いうお話を聞きました。それで、そうしたらどうしているのですかと聞いたら、いや、いいのだと。少なければ少なくともいいのだと。我々はやることをきちんとやっているわけだから、少ないからやめるとかどうしようとかということではないのだということ、非常に腹をくくっておりました。

私はそれはそれの一つの形式だなと思って聞いておりましたけれども、例えば苦小牧でもそういうふうになったときに、今日はマスコミの方も来ているので言いにくいですが、マスコミなどにも何だと書かれることもあるのだろうというふうに思います。でもそれでも自分たちはそれでもいいのだとして続けるのか、そこで右往左往するのかということ、やはりあまり右往左往するのであれば、最初からやること自体ちゅうちょしますけれども、結果がどう出ようと、我々はきちんとやることはやるのだというスタイルであれば、それはそれなのではないのかなというふうに思います。

もう一つは、所管の委員会での関係団体との懇談ということですが、これも本当に市民の皆さんに議会がそういう接点を持つということはいいいのですが、きちんとやはり議会は行政ではないのだというところを理解していただかないと、うちの近くの道路では穴ぼこがあるだとか、ここに信号をつけてほしいだとかという陳情ばかりがこう出てくると。やはりそうではなくて、我々がその所管の委員会として教えていただきたいのだと、我々がそういうふうに勉強するために皆さんに教えていただきたいのことをきちんと相手に伝えて、そういう会を持って、我々も、例えば私は今厚生委員会に所属しておりますが、厚生についてはなかなか勉強不足のところがあるから、そういう皆さんに教えていただくのだという形でやるのであればいいのかなというふうに思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） 触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 団体の皆さん、個人の皆さん、いろいろな方がいると思うのですが、意見交換の手法についてということで、私が所属している政党はインターネット政党ですので、ツイッター等のSNS等を使って、双方向意見交換できると思いますので、意見ですけれども、そういうツイッター等のSNSの活用をしたらどうかと思っております。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいま各会派から様々御意見をいただきました。

報告会も含めてのお話が多かったと思いますが、それから意見交換の在り方でございますけれども、このいずれにしても、その方法ですとか意見交換の開催の仕方、相

手方の選定の仕方、こういったことについてもまた様々なことを決めていかなければならないというふうに思っております、これについては若干やはり検討にかかる時間も必要かと思っております。

したがいまして、正副議長といたしましては、多少お時間をいただきまして、改めてこの件については今後も協議を進めてまいりたいと、そのように考えておりますが、そのような進め方でよろしいでしょうか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

●議長(金澤俊) それでは、そのように進めさせていただきます。

●議長(金澤俊) 次に、ICT化の推進に係る実務者会議のメンバーについて各会派の御意見を伺いたいと思っております。

新緑さん。

●新緑会長(矢嶋翼) うちからは山谷議員が出ます。よろしく願いいたします。

●議長(金澤俊) 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長(池田謙次) うちは大野議員です。

●議長(金澤俊) 民主クラブさん。

●民主クラブ代表(松尾省勝) 佐々木議員を指名します。

●議長(金澤俊) 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表(松井雅宏) 私どもは牧田議員でお願いいたします。

●議長(金澤俊) 日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長(小野寺幸恵) 富岡議員です。

●議長(金澤俊) 会派市民さん。

●会派市民会長(桜井忠) 谷川議員を選出したいと思っております。

●議長(金澤俊) 触沢議員は。

●無所属(触沢高秀) 私でございます。

●議長(金澤俊) はい。

ただいま各会派からメンバーの選出をしていただきました。

タブレット導入等のICT化の推進については、この実務者会議のメンバーを中心に、今後協議をしていただく形となります。実務者会議で具体的に何を協議してもらうかを決める前に、議会としてタブレットを導入するかどうかの方向づけをする必要がございますことから、このことについて各会派にお持ち帰りをいただきまして、次回の検討会において御意見をお伺いし、決定をしたいと、そのように思っております。その後、改めて実務者会議での協議項目について決定をしたいと考えておりますが、

そのような進め方でよろしいでしょうか。

小野寺団長。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） すみません。いきなりタブレットの方向性を位置づけるということなのですから、ICT化についてどういう方向で進めていこうかという議論ではなく、いきなりタブレットの議論ということで、ちょっと拙速過ぎるのではないかという意見がある、気持ちがあるのですけれども、その辺について御説明いただけないでしょうか。

●議長（金澤俊） ただいまの御質問にお答えいたしますが、正副議長といたしましては、事務局さんともいろいろとお話をこれまでICT化についてはついて進めてきておりますが、やはりICT化はいろいろな導入のメリットがあると思います。ペーパーレスもあれば、議員間でより迅速に情報を共有することができる等々のメリットがあると思うのですが、一般に我々が考えてるICT化は、やはりタブレットの導入を行うことでそういったことが実現できるというふうに正副議長としては考えておりまして、実務者会議に協議をしていただく具体的な検討項目を下ろす際には、やはりそのタブレットの導入によってそういう効果を見いだすためにどうするか、もしくは課題があるのであればその課題をどう解決して導入していくのか、もしくはルールづくり、規制をかけなければいけないものが運用上あるのであれば、そういうルールづくりをどうするか、もろもろあるとは思いますが、その前提となるのはやはりタブレットの導入をすると、それによつてのICT化を進めるということにあらうかと思っております、したがって実務者会議の設置、今メンバーも選出いただきましたが、そこで具体的な協議を行っていく大前提といたしまして、今皆さんにタブレットの導入について、その考えを協議いただきたいということで投げかけた次第でございます。

小野寺団長。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 分かりました。これは今結論づけるわけではないのですよね。

●議長（金澤俊） はい。先ほど申し上げましたように、次回の検討会において皆さんの御意見をまたいただきたいと、そのように思っている次第でございます。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 検討してきます。

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきたいと思っております。

●議長（金澤俊） 最後に、傍聴者アンケートの内容についてでございます。

資料2を御覧ください。

この件につきましては、6月28日開催の議会改革検討会におきまして、傍聴者アンケートの正副議長案をお示しすることとなっております。

内容につきましては、副議長から御説明をお願いします。

副議長。

●副議長（藤田広美） 傍聴者アンケート正副議長案について御説明いたします。

作成に当たっては、傍聴にいらした方から議会で感じたことや議会・議員に期待することなどの声をいただき、議会基本条例の目的である開かれた議会を目指す取組の参考にできればと考えました。

また、回答しやすいように字を大きめにし、なるべく分かりやすい表現を用いて、どなたでも記載しやすいようにいたしました。

アンケートの設問ですが、表面は年齢のほか議会情報の入手方法や傍聴理由を伺っております。

裏面では、傍聴で感じたことや議会・議員に期待することを伺っています。

また、議会基本条例の内容を踏まえ、議会・議員に期待することの設問6で、条例にある議会・議員の活動原則に沿った内容としております。

さらに、最後に傍聴での感想や市議会に対しての御意見を自由に書いていただきます。

なお、設問については必要に応じて、項目の追加等内容を変えたり、柔軟に対応していきたいと考えております。

資料の説明については、以上でございます。

●議長（金澤俊） 傍聴者アンケートの説明につきましては以上でございますが、内容、活用方法、期間等を含めまして、各会派の御意見を伺いたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 中身につきましては、これで賛同させていただきたいと思っております。

また、9月議会から始められるのか、12月議会から始められるのか、できるだけ早く始めていただいて、まずは1年間これをやってみて、そしてまたいろいろと反省点もあれば、改善をしながらアンケートを取っていききたいなと思っておりますので、まず1年間これでやってみてはどうかと思います。

●議長（金澤俊） 公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） うちも基本的にはこれで了解です。

後で皆さんから細かい部分が出たら、どんどん入れてくれても削っても全然結構で、まずは9月からスタートいただければなというふうに思います。

あと先ほど共産党さんから出ていた、それは議会ですよ、議会のアンケートなのでしょう。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵）　　そうです。

●公明党議員団団長（池田謙次）　　苫小牧は現在、とまボでしたか、市に対する全体の、1階のロビーに市全体に対するその要望というのは大事な話で、数年前からやっていますけれども、これはすばらしい内容で、正副がつくってくれて、議会に対するアンケートですから、それと、傍聴に来られなくても、さっきあったような市民の方が議会に対する思いがあれば、極論を言えば、ある程度は中傷、非難であっても、一回きちっとこちら側が聞く体制でいけば十分であろうと。批判であってもそれは貴重な意見なので、それは大事なことなので、先ほど言ったように、この内容で結構です。さっき言ったように多少の微調整はお任せしますので、ぜひ9月からスタートいただければなというふうに思います。

●議長（金澤俊）　　民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝）　　私どももこのアンケートに対する内容も含めて、これでよろしいかというふうに思っています。

そして期間なのですが、期間も1年間ということで、皆さんと歩調を合わせていきながら、この中身で、前回もお話ししたとおり、Q7で様々な意見が出されると思います。こういったところもどういうふうに整理をしていくのか、そういったところもアンケートをこれから取っていきますので、出てきた段階で検証をさせていただきながら、よりよいアンケートにつなげていければなというふうに思っています。

以上です。

●議長（金澤俊）　　改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏）　　内容については、基本的にこのような方向性で結構だというふうに思っております。

それで、期間の話で1年程度という話も前段で出ておりましたけれども、一定程度のデータをやはり積み重ねなければいけないという意味では、それぐらい必要かなというふうにも私どもも思っております。

それで肝腎なのは、そういったアンケートから出たその結果、データをどうやって我々が生かしていくかというところでございますけれども、これは先ほど来から議論が出ておりました全員協議会の場になるのか、それとも別な場がいいのか、この集計結果をしっかりと受け止めて、より議会がいい方向に改善に向かうような、そういった議論を想定しながら進めていくべきだというふうに思っているところです。

以上です。

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

日本共産党市議団さん。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 取り組むに当たっては、できるだけ早くということもあったと思うので、次の議会からでいいと思いますし、一定程度のデータを必要とすると思うので、1年は最低必要かなというふうに私たちも考えております。

内容については、おおむね私たちも賛同しておりますけれども、裏面の9項目めの設問なのですけれども、クエスチョン6のところは6項目複数回答可で載っているのですが、そこに例えば1番であったら行政の監視、あるいは2番であったら政策提案機能の強化など、これは条例に沿った文言が括弧づけで掲載されているのですが、非常に固い感じの印象を受けてしまうので、わざわざこの括弧づけの文言はなくてもいいのではないかなというふうに思っていますので、もしほかの会派の皆さんで賛同いただけるのならば、市政へのチェック、積極的な市政提案などのそういう柔らかい言葉だけで十分のような気がしておりますので、皆さんの御意見もいただけたらと思います。

もう一つ付け加えていただきたい項目があって、このクエスチョン6に付け加えていただきたい項目の中に、やはり議会の、議員のというか、議員の仕事の2つの大きな柱というふうに考えると、市政のチェックと、あとは市民の声をいかに議会に反映させていくかという、この2つの柱というのは重要だと思いますので、そういう意味では市民の声を反映するという項目を、議会に期待する項目の中に入れていただければと思っておりますので、これも皆さんの御意見を聞きながら進めてもらえたらと思います。

以上です。

●議長（金澤俊） 会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） この内容は、これで結構です。

ただ、共産党さんが若干内容を分かりやすい言葉にしたらいいのではないかということですから、趣旨は変わらないので、それであればそれであってもいいかなというふうに思います。

1年間ぐらいやるということについても、賛成をいたします。

ただ、年4回議会があって、本会議だけでいっても20回ぐらいあるかと思っておりますので、例えば実は100人のアンケートが集まったけれども、実際書いた人は20人だった、30人だったというようなことも考えられますので、その辺はきちんと何らかの対応をしたほうがいいのではないかなというふうに思います。

それからもう一つは、傍聴に来た人にするアンケートというのは、傍聴に来るということ自体非常に意識が高い人たちですから、そういう人たちに議会がどう変わってほしいかという、実際傍聴してみたの事を聞くということは正しいのかなと思いますが、例えば市議選の投票率が低いとか、いろいろな意味で傍聴に来ない人の意見というのも今後、今回ということではなくて、今後、そういうことも含めて考えればいいのか。そういう意味で先ほどの小野寺代表の出した例もありますけれども、皆さんと今後そういう検討をしていきたいというふうに思います。

以上です。

●議長（金澤俊） 触沢委員。

●無所属（触沢高秀） 皆様の御意見に賛同いたします。

以上です。

●議長（金澤俊） ただいま傍聴者アンケートに関しまして、皆様から様々御意見をいただきました。

おおむね内容的にもオーケー、大丈夫だと。そして期間は約1年間はまずやってみようではないかという御意見をいただきました。

改革フォーラムの松井代表からは、そのアンケート結果に基づいたその様々な意見をしっかりと検証して、改善が必要な部分に関してはしっかりと改善をしていかなければいけないという投げかけもありまして、この必要性は私も賛同いたしますけれども、そこをどこで議論を検証し、議論するかということに関しましては、先ほど議論いたしましたように、新たに全員協議会という場ができれば、そこでやるのも一つだと思いますし、なければこの検討会の中で皆さんと議論をして改善をしていくというのもあるかと思います。いずれにしても皆様の御意見をいただきながらそういったことについても決定をし、進めてまいりたいと、そのように考えているところであります。

それから、先ほど日本共産党市議団の小野寺団長から、アンケート項目につきまして若干の修正といいますか提案がありまして、クエスチョン6の部分の括弧書きの部分に関しては、堅い表現は要らないのではないかというようなことで提案がありました。これはやはりこの議会基本条例に基づいてアンケートの項目についても検討してきたという中での正副議長案の提案でありましたので、このように書かせていただきましたが、確かに市民にとってより取っかかりやすいといいますか、そういう項目の掲げ方であれば、それはいいかと思います。

また、一項目、市民の声を反映すると、議会議員に期待することについて市民の声を反映するという一項目を付け加えたらどうかという御意見もありましたので、

その点について皆さんの合意を持ってできるだけ進めたいと思っておりますので、改めて御意見を伺いたしたいと思います。

新緑さん。

●新緑会長（矢嶋翼） 今分かりやすい言葉でつくるということは大切なことかなと思っておりますので、共産党さんの案に一応賛成はしたいと思います。分かりやすくということで。

●議長（金澤俊） 先ほど公明党議員団池田団長からは、ある程度の調整はいいよと言われましたが、改めて、公明党議員団さん。

●公明党議員団団長（池田謙次） 異論はないです。

●議長（金澤俊） いいですか。はい。

民主クラブさん。

●民主クラブ代表（松尾省勝） 私どもも特に意見はありませんので、そのまま進めていただければと。

●議長（金澤俊） 改革フォーラムさん。

●改革フォーラム代表（松井雅宏） 括弧書きを取っても意味は通じますので、賛同いたします。

●議長（金澤俊） 日本共産党市議団さん、よろしいですね。何か改めてありますか。いいですか。

小野寺団長。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） すみません。全部括弧書を取ったほうがいいのかという意見も言わせていただいたのですけれども、1点だけ、3番目の議員の政治姿勢（政治倫理の遵守）と書いているのですけれども、政治姿勢と政治倫理というのは別物だと思いますので、例えば政治姿勢や政治倫理というふうにするか、もしくはまた例えば別に5番目にするとかという形で、違う項目として倫理の問題も載せるというのも大事なかなとも思ったので、そのことも含めて御意見があればと思います。

以上です。すみません。

●議長（金澤俊） はい。

会派市民さん。

●会派市民会長（桜井忠） 先ほども申し上げましたけれども、変えるのであれば、もちろん分かりやすく変えるという趣旨には賛成をいたします。

●議長（金澤俊） はい。

触沢議員。

●無所属（触沢高秀） 賛同いたします。

●議長（金澤俊） はい。

それでは各会派から御意見をいただきましたが、このアンケート調査の項目につきましては、今日本共産党市議団さんからありました提案については、皆さんおおむね賛同しているところがあると思いますが、小さなその調整の部分、文言等につきましては正副議長に一任いただければというふうに思っております。

そのような進め方でよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） ありがとうございます。

なお、ただいま皆様から御意見をいただきましたが、正副議長といたしましては、設問については今申し上げましたように、文言調整も含めて必要に応じて柔軟に今後も対応していきたいというふうに考えております。

また、活用方法につきましても、開かれた議会を目指すために、市民が議会に対してどのように感じ、何を求めているかを聞き、例えばその声に対し代表者会議で協議、検討しながら市民の声を取り込んでいきたいと、先ほど皆さんから御意見があったとおりの進め方でいきたいと思えます。

また、期間についても、先ほどありましたように、9月定例会から傍聴者に対して行いまして、1年間はずは続けていこうというふうに考えております。

それでは、そのように進めさせていただきたいと思えます。

小野寺団長。

●日本共産党市議団団長（小野寺幸恵） 先ほど桜井代表の方からあった、一人が何回も傍聴に来ていただいて、同じ意見が複数枚そろった場合の取扱いということだったと思うのですが、今回9月議会は初回なのでこのままでいいと思うのですが、2回目以降から議会に傍聴に来た回数などを記載していただく項目を載せることによって、何回か答えていただいている方なのかということがある程度私たちもつかむことができると思うので、そういう工夫もしていただければと思うので、この部分も正副議長のほうで検討いただければと思えます。

●議長（金澤俊） ただいま日本共産党市議団さんから新たな提案がありましたけれども、その点についても正副議長に御一任いただいてもよろしいでしょうか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、そのように進めさせていただきます。

●議長（金澤俊） その他、皆様から何かございますでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

●議長（金澤俊） それでは、議会改革検討会を終了いたします。
お疲れさまでした。

散 会 午後2時01分

以 上。